



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



培われたコミュニケーション

17回生 岡本 真

城北高校サッカー部時代は良い思い出ばかりです。入学当初は雨の日に階段トレーニングをしていてこれは楽しくなく嫌だなという印象でしたがsaijodanでの練習はきつくてもとても楽しかったです。中学1年生から高校3年生までみんな仲が良く練習前にフットベースボールや柔らかなボールで野球をやったりしていました。中学生と高校生と一緒に泊り会もしていて本当に仲良いチームでした。夏になると芸北のスキー場へ合宿にいき朝はスキー場の山を走り日中はサッカーグラウンドで練習をしていました。練習が始まると全力無中力を発揮していました。時折、井上先生や岡光さんの声が響くのも良い思い出です。高校3年生の時にはインターハイ予選、高校選手権共に準決勝で惜しくも1点差で敗れましたが、やればできると確信をした瞬間でもありました。仲の良いsaijodanチームでいつまでもいて欲しいですね。その後、国士館大学サッカー部へ入りました。部員は約200名と大所帯。そんな入学前の静岡合宿と千葉合宿でのプレーを買われすぐにAチームへ入ることができました。しかしながら日々の練習は想像を超える厳しさでした。特に夏の合宿は早朝、午前、午後、夜間と4部制が毎日続きました。それでも楽しく辞めたいと思うことなく続けられたのはsaijodanでの仲良いチームとの練習があったからだと思っています。国士館大学サッカー部では練習中それはそれは互いに厳しく叱咤罵倒が多いが、オフザピッチではとても仲の良いチームでした。山本昌邦、柱谷幸一、佐々木政尚、同級生の宮澤ミシェル、柱谷哲二等日本サッカー界を代表する素晴らしいチームメイトに出会うことができたことと仲の良いチームだったことがチーム力を大きく引き上げた要因ではないかと思っています。インカレ優勝、関東1部リーグ優勝には微力ながら貢献できたと思っています。こうしてみると『オンザピッチ厳しく・オフザピッチ仲良く』が個人とチームを伸ばす秘訣ではないかと思っています。卒業後は社会人リーグで天皇杯、全国社会人、国体優勝などを経験させてもらいました。1998年トヨタカップ(現クラブワールドカップ)でオランダのアヤックスが世界一に輝きました。日本の九州よりも小さなオランダが何故世界一になれるのか世界が目にした瞬間でした。その理由は二つありました。指導者の育成システム確立とジュニアからの育成プログラム確立です。その後サンフレッチェに元オランダ代表でW杯3度出場のヴィム・ヤンセン氏が監督として招聘されました。そんな時に食事に2

度行きヤンセン氏から早くオランダサッカーに触れるべきだと言われ1998年に学ぶ為に渡りました。ひと言では言い表せませんが(幼児から高齢者までサッカーが好き)(キッズ、ジュニアの指導者がリスペクトされている)(コーチングは不満や失敗にフォーカスするのではなく常にどうすれば上手くいくのか改善策をコーチングしている)これらがオランダサッカーの大きな幹です。そして何よりもサッカーを楽しんでいる姿が印象的でした。そんなオランダサッカー好きが現在まで続き6回オランダへ学びの場を求めて行きました。実家が保育園を経営していることもあり多くの子ども達に接して来ました。昔と今の子ども達を取り巻く環境の変化を少しでも良い方向に導きたいと思い『2か月でみるみる変わる親子コミュニケーション59の習慣』を全国一斉出版しました。実家の保育園で育ち今の保育園の親と子どもの環境を観ていて多くの変化を感じています。遊ぶ場の環境、遊び方の環境、日常生活の起床と就寝時間の変化、家庭でのコミュニケーション変化、近所付き合いの希薄化、少子化、超高齢化社会への突入、グローバル化など変化の著しい世の中になりました。しかしどの時代にも大切なことはコミュニケーションです。特にデジタル化社会となり家庭の中でも目と目を合わせて会話をするアイコンタクトが消失しつつあります。グローバル化社会だからこそ更に大切になってくるアイコンタクト。日本には「目交い」(まなかい)という言葉があります。母親がお乳を赤ちゃんにあげる時の目と目の距離約30cmくらいの距離の事を言います。しかしこの「目交い」という言葉も消失しつつあります。親、指導者、教師など全ての方に読んでもらいたいと思っています。そして今秋9月には第二弾の書籍を全国一斉出版します。第二弾の書籍も子育て世代、祖父母、指導者、リーダーなど多くの方々に読んでもらいたい一冊です。『ボールコミュニケーション』という言葉を商標登録し全国にて活動をしています。幼児から高齢者までボール一個から生まれるアイコンタクトそして笑顔と笑い声が溢れる『ボールコミュニケーション』環境をつくれるように全国47都道府県にお届けしています。サッカーのパス交換とは違い一昼ほどしか離れない距離でのボール交換です。必ず微笑んだ眼でアイコンタクトしようをkeywordにしています。既に講演会やPTC、イベントで47都道府県を回りましたがまだまだお届けできていない地域もたくさんあります。是非子育て支援講演会やPTC、イベントの依頼がありましたらご連絡ください。是非ともsaijodanの皆様のご支援宜しくお願いします。そして城北高校サッカー部で学んだじゃあいいではない仲良しさを大切に、何よりも好きなサッカーを更に好きになり今もなおサッカーに携わっていただけることを幸せに思っています。これからは多くの方々にスポーツの素晴らし



さ、サッカーの素晴らしさを伝えていきたいと思っています。11月には福山市にある広島県民

「何の為にするのか」

31回生 小野 敏史

31期生の小野 敏史です。Seed s l t dという会社の代表をしています。サッカーは、中高城北でゴールキーパーをしていました。当時宮本先生がまだ寮の舎監で、監督就任3・4年目だったかと記憶しています。成績は、新人戦と2年の時の選手権が最高。両方あと一勝でベスト16だったと思います。正直練習試合に強く、公式戦は弱いチームでした。先生には期待されていた記憶があります。日本代表で、加茂ゾインプレス最盛期。ゾインプレス信者でもあった記憶があります。Jリーグが始まった直後、日本代表がW杯に出たのは、この後の話です。過去はそんなところで、せっかくなので、サッカー部時代と今を対比して何を感じるか。

結論から言うと、根本的には変わりません。何を達成したくて、それを達成するために何をしなければならぬのか。挑戦し、失敗し転がり続けています笑

学校の勉強以外に、正解ってないなと。失敗は、同じようなことを皆経験する。大事なことはwhy? 何をするのかではなく、何の為にするのか。目的意識大事です。私の会社は、広島県の価値を残していく事がやりたい事です。

↓その為に価値あるものの価値を最大化し、世界に発信する。↓価値あるものの一つに、職人。それを残す。私は、職人iproが好きです。その為に、職人とコラボし発信しお金に変える。なぜ、農家や職人が減るのか? 大変なのに稼ぎが悪いから。これはなぜ? 価値を利益にかえられないから。じゃあこれを変えろには何をすべきなのか。答えは簡単で、価値を利益に変えれば良い。面白いのは、物作りに長けている人ってそれ以外が下手な方が多い。じゃあそれを俺らがやればいいじゃん。ってノリです。人生の、チームの夢を叶えたい、目標を叶

文化センターホールにて後輩でチームメイトであった元サッカー日本代表柱谷哲二氏を招聘し二人で講演会をします。演題は『ドーハの悲劇』隠された秘密。 subtitle (これからの日本サッカー界に大切なこと、これからのサッカー指導者に必要なもの)懇親会もありますので是非ご参加ください。『サッカーは子どもを大人にし大人を第一級の紳士に育てるスポーツだ』by日本サッカーの父デッドマル・クラマー氏 『サッカーは時に大人を子どもに返してくれる魅力を持つスポーツだ』byおかつち W I T H E N J O Y S M I L E S A I J O D A N よしもと興業FAアスリート所属おかつち

えたい。1人で出来ないことがほとんどなので、じゃあ人と組めば良い。自分の長所を理解しつつ、自分に足りないところを保管してくれる仲間を作れば良い。つまり、ビジョンを共有し、それを叶える為にチームを作って、適材適所でポジションを担うこと。それにより、それぞれの価値の最大化をし、それでチームの価値の最大化を行う。同時に、目的を達成する為に、挑戦して失敗を恐れず、成功の確率をあげる。しつこいですが、正解の答えは行動の前にはありません。これを、今の年になっても常に仲間とやり続けています。

これって、皆さんが今体験している城北サッカー部と一緒にです。宮本先生が掲げる、何の為にサッカーをするのか。それをチームとして達成する為に、どうやってやるのか。その為に、何をするのか。適材適所は、先生がやる。適材になる為には、個性も必要です。足が速いとか背が高いとか羨ましいです。僕は、県で3番目に背の低いキーパーでした。でも身体能力が低くても、ムードメーカーでも下手だけどやたら走るでも、何か必ず人には希少性を創出できると信じています。努力でそこは埋められるはず。ただバクトルが違くと、意味のない努力になってしまいがちなので、Whyを理解することが重要だと考えます。宮本監督のWhyをほめてください。理解できないならできるまで聞いてみてください。迷ったら、行動を起こしてください。功の確率をあげてください。私も負けずにやり続けます。とはいえ、私はいつもビビって生きています。10代に多くの経験ができるよう、応援しております。諸先輩方を前に、偉そうにものを申し大変恐縮です。誰にと考えた時、今感じていることを選手にと私なりに考え、記事として書かせていただきます。コロナの影響も多々あるかと存じます。弊社も、3割減の状況です。これを機に、前に進もうと考えております。皆様の、健康と事業の発展をお祈り申し上げます。

卒業後に実感

34回生 石井 崇太郎

34回生の石井崇太郎と申します。この度は高校からサッカー部に入らせていただき、なかなかレギュラーにもなれなかった自分にOB会報誌を執筆させていただきまして、ありがとうございます。34回生といえば、現在パソナルトレーニングジムを経営している畑紀寿くんや能美島出身の木戸教普くんが有名なのではないかと思います。本当に個性の強いメンバーが集まった学年ではなかったかと思えます。城北サッカー部初(?)の東京大学に行った熱血ゴルキーパーの岡本英明くんも同級生です。

自分は高校からサッカー部に入ったこともあり、最初はゴールキーパーを目指して練習していましたが、やはりフィールドで大きく動いてプレーしたいと思い、宮本先生に申し出てポジションを変えてもらいました。あの頃、宮本先生は寮監だったので、最上段での姿しか見ていなかったの、言い出すのが少し怖くて、何度も言いに行こうか、やめようか寮の周りをウロウロしていたように思います。宮本先生もあまり口数の多くない自分す。『話があるのですが……』と来たので、少しビックリしたような面持ちだったのを今でも覚えています。しかし実際に話してみたら宮本先生はとても優しく、『それ（キーパーをやめて）で本当にいいのだな？ お前が決めたんだつたらフィールドで頑張れ！』と自分の肩をおしてくださいました。最上段で見る宮本先生は監督としての責任があつたから厳しいことや威圧感があつたのかもかもしれませんが、最上段を下りた宮本先生はとても優しくつです。学食の奥で食べていたら、体調に気遣つてくださった、JR通学していた自分たちを車で広島駅まで送つてくださった：（たまたに自分たちを乗せて広島駅に送つて下さつていたのに、それを忘れてご自宅に向かわれていたことも何度かはあつたのは今となつて時効だと思いますが（笑））

現役のサッカー部時代も良い思い出はたくさんありますが、それについては多くの方が書かれていると思うので、卒業してからのサッカー部の思い出を書かせてもらいます。まずは同期のみんなとは大学時代は1年に2回は必ず集まり、いろんな旅行もしました。一番大きかったのが青春18切符を使つての北海道旅行です。寝袋と青春18切符だけを持つて、東京から鈍行で北上していき、土地の美味いものを食べて、公園やスーパの駐車場で寝袋、次の日また鈍行で北上し、初めて北海道に入ったときはとても感動したし、この仲間とだから出来た良い経験だと思ひました。また先輩は城北のサッカー部出身というだけで可愛がってくださつてもらつています。自分は西条で亀齢酒造という造り酒屋を

しているのですが、平岡栄作先輩や神尾智彦先輩を始め多くの方が愛飲してくださり、宮本先生に至っては蔵見学にまで来てくださり、Facebook等でもとても応援して下さいます。自分としては現役時代以上に卒業してからの方が城北サッカー部に入っていて良かったなと実感しています。現役の皆さん、今は練習がきつかったり、なかなかレギュラーになれなかったり、勉強との両立が大変だったりすると思いますが、是非とも最後まで辞めずに続けてください。そうすれば今の頑張りの2倍、3倍…もししたら10倍以上のご褒美が卒業後に待っていると思いますので。

どうしても酒造りは冬場が忙しいことに加えて、最近はサッカーをやる機会がめつたり少なくなっただので、なかなか足が向かわなかった最上段グラウンドにも今回を機会に行ってみたいなという気持ちがとても高まりました。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を下さった宮本先生、本当にありがとうございます。

47回生 末吉 直道

走り抜けてほしい

初めまして
7回生の末吉直道です。

先日仕事でラーメンを作っている際にたま宮本先生が来店されこのOB日記の依頼を頂き書かせてもらう事になりました。

まず最初に簡単に高校を卒業してからの流れと近況報告をさせて頂きます。広島城北高校を卒業し京都産業大学に入学し4年間楽しい学生生活を過ごし岡山の銀行に就職しました。そこから3年間岡山で過ごし、去年の4月に父の会社であるベスト天下一品の店舗でラーメンを作っています。

このOB日誌の依頼が来た時に自分はどういう風に部活へ取り組んでいたのかなと考えてみました。ただ自分は目立つ選手でも無かったですし高校生活全てをサッカーに注いできたタイプでもなかったのが割愛したいと思います。笑でも、ライノス所属でアドバンスリーグの三部に上がる事を目標に岩井先生と自分達の代、そして後輩と最上段で頑張った事は良い思い出です。

じゃあ何を書いて行こうかと悩んだんですが僕が去年親の会社に入社してからの事を書いて行こうと思います。

今の職業は先程にも書きましたが天下一品でラーメンを作りながら働いています。一応天下一品をすごくざっくり説明すると昭和46年京都発祥のこつてりラーメンを人気としているラーメン屋さんです。そんなラーメン屋さんに去年入社し、関西で1か月研修を受け、宮古島に新規オープンで1か月働きそれ以外は広島の中筋店で研修を受け今は他店舗に応援を入りながら基本は築々園店の店舗で

ラーメンを作っています。是非皆さん食べに来てください。笑

この一年間は本当にありかたない事に沢山の新しい経験をさせて貰い、沢山の出会いをさせて頂きました。仕事面は腱鞘炎に会いながらもララーメンや炒飯を作ったりなどやはり体力仕事なので身体をいじめ抜いています。

そんな僕ですが、親の会社に入る決断をする前に本当に悩みました。経営者になる覚悟、自分はそんな器があるのかなどなど沢山の悩み、正直銀行を続ける方が土日休みだし生活も安定しているし、と悩みました。そんな時に相談できたのがやつぱり不思議なことに城北サッカー部の仲間でした。

実は僕は大学受験や、新卒の就職活動等節目節目にサッカード部の仲間にも助けてもらっています。なぜかと言うと自分以上に僕の性格や考え方、良い所悪い所全部知ってくれているし、ハッキリ言ってくれるからです。

今回の転職の時もある2人に相談したら自分の中でもう決めてるんでしょ、やつたらいじゃん」と2人共に言われました。そして、ただ背中おして欲しいんでしょとそれを言われて確かにそうだなとただ自分が不安に思っているだけで入りたいと思っているんだと気づきました。そこから親の会社に入る覚悟が一気に固まりました。

僕はサッカーが下手だったし目立つ選手でもなかったし、サボったりもしたんですけどもやっぱり最上段での中高合わせて6年間は自分にとつて宝物なんだと今凄く感じています。そして、卒業して何年も経っているのに後輩や先輩や先生方がわざわざ店舗に食べに来てくれたりコロナウイルスで大変な時にお店に来てくれたりあまりサッカー部に縁がないと勝手に自分が思いこんでいるだけで色んなOBの方々と縁があり今でも助けてもらっているんだと最近凄く感じています。

最後に今現役で最上段で頑張っている選手

偉そうな事は全く言えないんですけれどサツカーの上手い下手だったりやる気の高い低いとか色んな人が最上段で頑張っていると思います。嬉しい時や悲しい時そして、悔しい時や難しい人間関係を経て少しずつ仲間になっていくと思います。

そうしたら、その仲間は自然と大人になつても繋がっていくし人生において財産に必ずなると思います。

なのでコロナウイルスに負けずに最後までみんなで走り抜けて欲しいと思います。
長々と綴ってきましたが、これからも一人のOBとして、広島城北サッカー部を陰ながら応援しています。
最後まで拙い文章を読んでいただき、ありがとうございました。



1人1人がつながって

広島城北高校サッカー部OB会長

19回生 吉川英司

毎年恒例の初蹴りを終えOB各自がそれぞれの持ち場に帰り、普段の生活を始め約2ヶ月。誰もが経験したことのない「コロナ禍」が始まりました。国と各都道府県知事との責任の違いや思想相違。答えの見えない会社運営上での問題点の多発。今まで考えもしなかった「在宅」ワークや外出不可。4月に新学期を迎えるはずだった学生が未だにリモート講義で同級生と全く顔合わせていない事実。私自身も「金融業界」に身を置いていますがなかなか対応が出来ない事案のもどかしさなど…。高校総体の中止、甲子園中止、オリンピック中止等々。細かい話ですが、OBチームで参加している、広島シティリーグの前年度のトーナメント決勝戦も開催予定でしたが「中止」となりました。

こんな状況ではありませんが、全国へ飛び立つＯＢの中でも色々良いニュースが届いてきております。岩井先生と同期（＝24回生）の棕梨敬介さんが株式会社山口ＦＧの代表取締役社長・グループＣＣＯに就任。50歳の若さでグループのＣＣＯとは「脱帽」です。

皆様もご存じかもしれませんが、来年4月より「医学科進学コース」も新設され特色あるカリキュラムを用意し生徒確保を図る方向へすすんでいます。やはり、少子化がすすむ昨今、「文武両道」のサッカー部の位置づけを確固たるものとするため、先日「リモートクラブ説明会」を宮本監督中心に岩井先生、スタッフのアイディアで開催されました。この企画は広島・東京在住のOB代表4名をWEBでつなぎYouTubeでオンライン配信するというもの。まさに、コロナ禍が生んだ新スタイルのクラブ紹介であったと思います。この試みがどれだけ影響があったのか今後を楽しみにしておきましょう。サッカー部OBにも医者がたくさんいます。サッカー部ドクトーOB分会も是非機会あれば発足してみてください。楽しみにしておきます。

夏の総体は残念ながら中止となつてしまいました。冬の手権は行われるようです。第一次トーナメントの相手（＝宮島工業）も決まりました。現状恒例の夏合宿は開催予定とは聞いておりますが、状況がどう変わるかは「神のみぞ知る」。冬の手権は是非開催させてあげたいと思っているのは多分皆さん全員の共通認識だと思います。

それを実現する為にも「1人1人」の行動意識が大事な事だと思います。我々広島城北サッカークラブはここにも行動規範をもっとしっかり守っていきましょう。とともに、もう少し「我慢」しましょう。

コロナとの「共生」「新生活様式」を受け入れ、新しい未来への生活へ向けて互いに気を

近況報告

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による長期の休校期間を経て、6月1日からようやく学校が再開しました。翌週8日からはクラブ活動も再開し、最近になってようやく練習試合も組めるようになりました。

世の中で様々な行事・大会が中止となりましたが、高校サッカーにおいても夏の全国高校総体体育大会(インターハイ)が開催できませんでした。この大会で引退する選手にとっては最後の舞台がなくなってしまうでしたが、引退する3年生のうちの6人が選手権まで高校サッカーを続ける決断をし、彼らを中心としてチームを再スタートしました。

先日、最上段に集まれば若手OB達に声をかけて、現役チームとトレーニングマッチを行いました。久しぶりのゲームの機会を与えてもらい、大変にありがたい時間を過ごすことができました。うれしそうな現役の生徒たちはもちろん、すがすがしい笑顔を見せてくれたOB達の様子が大変印象的です。

世の中がこんな状況だからこそ、たとえ最上段に足を運ばなくても、OBのみなさんには広島城北サッカー部との繋がりをいつも心にとめておいてほしいものです。

みなさんに少しでも明るいニュースを届けたいので、できるだけよく、チーム丸となって走っていきますので、これからも応援のほど、どうぞよろしく願っています。

広島城北中・高等学校サッカー部
岩井 竜彦(24回生)

QPoNのひとり言

3月から6月末の休校にともない県総体が中止になり、サッカーは、高校選手権が予定されていたため代替試合もありませんでした。その結果9人の高校3年生が試合を行えず勉強の切り替えることになりました。

ミーティングのスピーチで、引退するしないを問わずきちんと自分に向き合った高校3年生のすばらしさを改めて感じる事ができました。

来年3月に卒業する彼らの今後を支援しえてやってください。

先日、民間施設で練習試合を行った際、我々の前に某高校のOBチームが試合を行っていました。その試合後の態度、振る舞いが…（若い世代なので仕方ない部分もあるとは思いますが）我々は常に、きちんとした振る舞いを意識しましょう。

コロナに負けず、
明るく笑顔で前向きに
顔晴ろう！



宮本 誠(19回生)

付けて頑張りましょう。また来年1月3日「最上段」グラウンドで!!その時には遠慮なく「新年会」が開催できる事を祈念しまして。

計報のお知らせ

元校長で永年サッカー部の顧問をして頂きました田辺 範和 先生(享年73歳)が令和2年3月7日にご逝去されました。皆様にご報告するとともに田辺先生のご冥福をお祈りいたします。

田辺先生ありがとうございました。